

# 世界価値観調査\*における 芸術文化の定量測定に関する考察

—『都市や農村をもっと美しくするように努力する』項目の評価分析—

● 吉田俊六／富山大学芸術文化学部

## はじめに

筆者は本学部において、文化マネジメントコースに学ぶ学生諸君にとって身につけておいてもらいたいマネジメント系の科目を主に担当している。マーケティング、マーケティング・マネジメント、ライフスタイル、社会調査法などの授業を通じて、芸術文化を定量的に測定できるかどうかとの疑問を提起したい。また、定量分析のためのデータ入手の情報源も紹介し、測定を試みるとしたらどのように工夫をしたら良いかを挑戦課題として取り組んでもらおうと考えている。今ノートでは筆者が数年来研究対象としてきた「世界価値観調査」\*の設問の中から芸術文化との接点を持ちそうな項目について取り上げ、数十カ国のデータ比較を交えて分析を試み、分析の視点や考え方、発見した事実を紹介する。

\*注1：「世界価値観調査：the World Values Survey」  
<http://www.worldvaluessurvey.org/>は、各国・地域ごとに全国の18歳以上男女1000サンプル以上の回収を基本とした個人調査である。政治観、経済観、労働観、教育観、宗教観、家族観、環境観など広範な対象分野の約90問、190項目からなる。この調査はその起源をヨーロッパでのEC統合化に伴うキリスト教離れを危惧するカソリック教団による各国生活価値観比較研究によっている。ECの研究に従事したミシガン大学のR. イングルハートの構想により1985年の第一回調査以降5年おきに実施してきた。ヨーロッパではそのままEVS：European Values Studyを続けているが、WVSはヨーロッパ以外の諸国も回を経るにつれて多数参加し、世界規模の価値観比較研究の仕組みに発展した。2000年調査では81の国・地域、世界人口の85%をカバーするに至っている。日本では電通総研が最初の段階から一貫して調査を実施してきた。

筆者は短期在外研究員として米国を選定した。カリフォルニア大学サンディエゴ校のIR/PS：International Relations and Pacific Studies（国際関係および環太平洋（諸国）研究大学院）にて2000年7月から半年の間研究活動を行った。同校は、ICPSR：The Interuniversity Consortium for Political and Social Research\*\*加盟校で

あり、世界価値観調査の元データによる研究の機会を得た。また、10月にミシガン大学のR. イングルハート教授を訪ね、研究仲間に入れて頂くようお願いした。この分野ではわが国を代表する山崎聖子主任研究員に予め内諾を得ていたことに加えて、R. イングルハート教授との共同研究者である関西学院大学社会学部の真鍋一史教授のご指導を賜れる見通しもあり、電通総研との協調を前提に研究グループへの参画を快諾されて、現在に至っている。

\*\*注2：ICPSRは、社会科学に関する調査の個票データを世界各国や国際組織から収集、保存し、それらを学術目的での二次分析のために提供する世界最大級のデータアーカイブである。ICPSRは、ミシガン大学社会調査研究所により1962年に設けられた。日本では、東京大学社会科学研究所日本社会研究情報センター（SSJデータ・アーカイブ）<http://ssjda.iss.u-tokyo.ac.jp/icpsr-about.html>がハブ機関となり現在24の大学が加盟している。

世界価値観調査では、かくも広範にかつ多くの設問を用意しながら、芸術文化に対する価値観を直接に測定する項目を発見するのは難しい。今回は、やや関わりを持ちそうな唯一の項目を抽出し、紹介を試みる。すなわち、以下のV120、V121の設問に含まれる四つの選択肢のなかの二項目である。((1)Human Beliefs and Values p424より引用。原文にはないが、強調のため太字下線を施す)

V120 People sometimes talk about what the aims of this country should be for the next ten years. On this card are listed some of the goals which different people would give top priority. Would you please say which one of these you, yourself, consider the most important? CODE ONE ANSWER ONLY UNDER "First Choice".

V121 And which would be the next most important? CODE ONE ANSWER ONLY UNDER "Second Choice".

	1 <sup>st</sup> choice	2 <sup>nd</sup> choice
A high level of economic growth	1	1
Making sure this country has strong defense forces	2	2
Seeing that people have more say about how things are doing at their jobs and in their communities	3	3
<u>Trying to make our cities and countryside more beautiful</u>	4	4
Don't know [DO NOT READ OUT]	9	9

日本語の設問では以下ようになる。2005年調査結果の例を示す。

(2)「世界価値観調査」(第1回～第5回)国内結果よりのp95より引用。データは2005年調査結果)

10年間の国家目標で重要なもの (各単数回答)

	最も重視	2番目に重視	合計(%)
高い経済成長を維持すること	46.5	19.4	65.9
十分に強い防衛力を持つこと	8.4	18.9	27.3
人々が職場や地域社会での物の決め方にもっと発言できるようにすること	28.6	22.7	51.3
<u>われわれの都市や農村をもっと美しくするように努力すること</u>	12.4	23.4	35.8
わからない	4.0	15.6	19.6

## 1. 日本における『都市や農村をもっと美しくするように努力すること』の評価

時系列データ(表1)に対する電通総研の記述を始めに引用しておく。この記述の特徴は、回答の推移について事実を指摘し、なぜそのように推移しているかについては、コメントをしていない。筆者は、この事実の記述に対し、敢えてなぜ時系列変化が生じているのかについて、理由を考察してみたい。この読み取りに取り掛かるにあたり、各調査時点の社会経済動向を概観しておこう。

### (1) 電通総研による記述

表1について、資料(2)「世界価値観調査」(第1回～第5回)国内結果よりのp95より記述部分を以下に引用する。(p94 2. 国家・社会 の章立ての中で①国防意識 について、p95 ②10年間の国家目標で重要なもの となっている)

10年間の国家目標で重要なもの

わが国の向こう10年間の国家目標として4項目あげたもののうち、重要だと思うものをきいたところ、『高い経済成長を維持すること』が「最も重要」としては47%でトップ。「二番目に重要」と合わせた「合計」も66%でトップである。

「合計」重要度の第2位は『人々が職場や地域社会での物の決め方にもっと発言できるようにすること』の51%であり、第3位は『われわれの都市や農村をもっと美しくするように努力すること』で36%である。『十分強い防衛力をもつこと』は27%で最も重要度が低い。

「合計」重要度を時系列でみると、『高い経済成長を維持すること』は一貫して重要度が上がっている。一方、『われわれの都市や農村をもっと美しくするように努力すること』は下がる傾向がみられる。『十分強い防衛力をもつこと』は2000年に比べ、今回は12ポイントと大きくアップしている。

となっている。

### (2) 各調査時点の社会経済動向を概観する

周知のように、1990年はバブル崩壊の直前で人々の意識も強気で高揚していたと推測できる。1995年は一転、マイナスからかろうじてプラス成長となっているが、意識は不景気のどん底に近い状態といえる。5月にはオウム真理教新宿サリン事件が発生した。本調査は11月に実施されたので、宗教関連の回答に影響が見られる可能性がある。2000年もマイナスから、0.6%、ついで2.5%成長の年となっている。(1991-2004年度平均成長率は1.2%である)2000年の大卒求人倍率が1.0水準、2005年でやっと1.5倍に戻っている具合であった。しかし、2005年8月の月例経済報告においては、いわゆる「踊り場」脱却宣言が行われていて景気回復基調がマスコミを経由して国民全体に伝わり、やっと苦しい時期を脱出できそうだと風潮がでてきたものと思われる(大卒求人倍率が2008年には2.0倍と推定されている)。話しは前後するが、1998年8月に北朝鮮「テポドン」発射(日本列島飛び越し)なる事件が発生している。2001年の9.11同時多発テロ等世界的にも不穏なニュースが多く流れ、核兵器保有国の増加など、防衛力に関心が高まってきた時期を反映している可能性がある。追い討ちをかけるように、2005年2月に北朝鮮は「核兵器保有を宣言」を行った。(本調査は同年11月に実施されている。)

表1 今後、十年間の国家目標で重要なもの（各単数回答）（日本）

(%)

実施年	サンプル数	高い経済成長を維持すること			十分強い防衛力を持つこと			人々が職場や社会での物の決め方にもっと発言できるようにすること			われわれの都市や農村をもっと美しくするように努力すること			わからない		
		最も	二番目	合計	最も	二番目	合計	最も	二番目	合計	最も	二番目	合計	最も	二番目	合計
2005	1096	46.5	19.4	65.9	8.4	18.9	27.3	28.6	22.7	51.3	12.4	23.4	35.8	4.0	15.6	19.6
2000	1362	38.8	22.2	61.0	2.7	12.3	15.0	33.6	23.5	57.1	17.1	29.8	46.9	7.8	12.3	20.1
1995	1054	36.3	18.2	54.5	2.1	14.0	16.1	31.3	23.3	54.6	21.3	29.7	51.0	9.0	14.7	23.7
1990	1011	36.4	17.0	53.4	3.0	6.2	9.2	26.2	21.4	47.6	19.9	28.2	48.1	14.5	27.2	41.7

※「合計」は「最も重要」と「二番目に重要」の回答パーセントの合計値

出所：「世界価値観調査」（第一回～第五回）国内結果より p95

### （3）社会経済環境局面を踏まえての時系列の回答傾向を捉える。

- ・『高い経済成長を維持すること』が「最も重要」とする回答では各年を通じてトップである。また、『人々が職場や地域社会での物の決め方にもっと発言できるようにすること』がこれに次いでいる。これらは、回答率の高さが「最も重要」>「二番目に重要」となっている。
- ・『われわれの都市や農村をもっと美しくするように努力すること』および『十分強い防衛力を持つこと』の項目に関しては回答率の高さが「二番目に重要」>「最も重要」となっている。

2005年調査では「われわれの都市や農村をもっと美しくするように努力すること」を今後の国家目標として考える場合「最も重要」と考えるのは12.4%、「二番目に重要」と考えるのは23.4%、合計35.8%と三分の一強である。4回の調査では最低の回答水準であり、減少傾向を示しているようである。

2000年調査との対比でみると、『十分強い防衛力を持つこと』に対して「最も重視」は5.7ポイント増加、「二番目に重視」は6.6ポイント増加し、「合計」では12.3ポイントも増加している。（あくまでも、推測であるが、2000年までの調査対象年齢枠が「18歳以上」としていたものを2005年には「18歳以上79歳まで」と明示していることも多少の影響があるかもしれない。高齢者ほど、回答率が高く、かつ、高齢男性の回答者は戦争への参加に対して肯定的な回答をする割合が増加する。）

一方、『われわれの都市や農村をもっと美しくするように努力すること』に対して過去最低の35.8%「最も重視」は4.7ポイント減少。「二番目に重視」は6.4ポイント減少し、「合計」では11.1ポイントも減少している。増加・減少の傾向に着目すると、2000年から2005年にかけての変化は、単数回答（「わからない」まで含めて

合計100%）でどの項目を選択するかシェア争いにも似た構造となっているために、背景として何らかの社会的な変化が生じた想定することも可能である。

また、1990年・1995年（面接法）、2000年・2005年（郵送法）なる実施方法の変化要因も考慮対象の一つとなりうるが、1990年のバブル期と1995年の低迷期、2000年の回復期待期と回復確認期の違いの方が大きいように見える。（一般に、この当時の面接法では回収率が70%程度に至る場合が多い。一方、郵送法の場合は回収率が大きくても40%程度となる場合も多く、回収できた母集団のランダム性に微妙な差が生じているのではないかと疑問も否定しきれない。しかし、厳密に方法論の差を吟味するためには、同時に二つの調査方法で実査を遂行して比較分析するよりない。）

それでは、『われわれの都市や農村をもっと美しくするように努力すること』を国家目標として重要と考える層が減少したのはなぜなのだろうか。他の項目を選択する層が増えたわけであるから「最も重要」と回答する項目で増加したものに着目すると、実は、『高い経済成長を維持すること』の項目では2000年の38.8%から2005年の46.5%へと7.7ポイントの増加が見られる。せっかく、回復してきた景気をぜひ持続させたいとの思いを反映させたものとする解釈もできるのではないだろうか。

繰り返しになるが、「合計」12.3ポイントも増加した『十分強い防衛力を持つこと』の項目への選択が加わって、さし当って生活や戦争に関わらない『われわれの都市や農村をもっと美しくするように努力すること』なる項目を選択する層が減少したものと解釈する。

やや結論めいた物言いとなるが、国家十年の計を4つの項目について判断し、①景気動向、②防衛力、③リベラルな言論風土の情勢、④都市や農村を美しく、等の切り口の1つを最重要、2番目に重要と選定する作業

の結果、『都市や農村を美しく』を最重視する人が12%強、二番目に重視する人が23%強存在するという事実は、大変に心強いことと考える。過去の調査の中では、最大、最重視するとの回答が2割強、二番目に重視するとの回答が3割弱を示したことも考えると、今後、世の中が安定し、戦争の危機も切羽詰らなければ、観光立国を促進する過程で、さらに、この側面が評価されてゆくことも期待できる。観光資源を重視するヨーロッパ諸国の中でも、イタリアやフランスでは景観に関する基本法を設けているとされ、他の諸国でも景観の問題は行政が責任を持って取り組むべき課題との共通認識があるとされているようである。わが国でも、「景観緑三法案」など関心は高まってきている。今後とも、世界価値観調査のこの設問・項目に注目していきたい。

## 2. 世界に見る『都市や農村をもっと美しくするように努力すること』の評価

### (1) 個別項目に関する順位分析

2000年度世界価値観調査に参加した国・地域の中から、電通総研が統計的に信頼置けるデータとして抽出した60カ国について、今後10年間の国家目標としての優先順位（最も重要、および、二番目に重要だと思ふもの）を比較一覧できるように整理して作成したのが下表2である。(3)「世界60カ国価値観データブック」p131(a)(b)表より引用)表から発見できるのは、『われわれの都市や農村をもっと美しくするように努力すること』を国家10年の計として最重要視している度合いが国によって多様であることである。回答率の高い順に着目して整理を試みる。

- ・「最も重要」としている回答水準について、1位韓国：17.3%、ついで、日本：17.1%、3位モロッコ：15.7%、僅差で4位インド：15.6%、さらに、5位中国：13.7%、6位イスラエル：13.3%、7位ベトナム：11.8%、8位トルコ：10.6%、9位メキシコ：10.4%、10位エジプト：10.1%、11位スペイン：9.4%などが挙げられ、10%近い回答水準を示している。
- ・2番目に重要としている回答と合計してのランキングをみると、韓国・モロッコ：49.8%が同率の1位、3位日本：46.9%である。これらの3カ国が2000年調査での上位を占めている。
- ・「合計」では1位ベネズエラ：38.0%、2位中国：37.7%、3位イスラエル・セルビアモンテネグロ：36.8%、5位ベトナム：36.6%、6位メキシコ：35.6%、7位スペイン：35.3%、8位エジプト：34.7%、9位インド：33.4%などが上位を占める。上位を占める諸国でこの項目を国家目標として重視する背景や理由づけは、さらなる手がかりを必要とする。

(ついでながら、1990年世界価値観調査の結果(4)「世界23カ国 価値観データブック」p235(a), p236(b)各表より引用)を見ると、この項目に関して高い回答水準を示したのは、1位韓国：「最重視」28.3%（二番目33.4%）、2位台湾：「最重視」24.7%（二番目28.8%）、3位日本：「最重視」21.3%（二番目29.7%）、4位プエルトリコ：「最重視」20.0%（二番目38.2%）の4国が群を抜いていた。これらに次ぐのは5位スペイン：「最重視」9.3%（二番目27.2%）、6位フィリピン：「最重視」9.0%（二番目18.7%）、7位ベネズエラ：「最重視」8.3%（二番目17.6%）、8位中国：「最重視」8.1%（二番目24.4%）などである。

1990年の世界価値観調査で、『われわれの都市や農村をもっと美しくするように努力すること』を二番目に重要とする回答が目立つのは、1位ドイツ：31.5%（「最重視」6.8%）、2位スイス：29.9%（「最重視」7.5%）等である。この中で、1988年にソウルオリンピックを開催した韓国において、「合計」が61.7%となり他に抜き出ているのは『都市や農村をもっと美しくするように努力』してきたモメンタムを想定することもできるが、他の国はどのような事情があるものであろうか、各国の方々に事情と解釈の根拠を伺いたいものである。

折角であるから、他の項目に関する回答のあり方で特色のあるものを発見したので紹介しておこう。

- ・中国が最も目立つのは『十分強い防衛力を持つこと』への重視度合いである。最重視についての順位では、1位中国：34.9%（二番目28.1%で合計63.0%の1位。1995年24.7%、1990年18.7%であったから。5年ごとの調査で、重視度合いが強まってきていることが分かる。）2位エジプト：24.5%（二番目23.9%で合計48.4%の5位）、3位イスラエル：23.6%（二番目30.8%で合計54.4%の4位）、4位ウガンダ：23.5%（二番目38.5%で合計62.0%の2位）、5位ヨルダン：22.5%（二番目36.5%で合計59.0%の3位）、合計6位タンザニア：45.4%、合計7位トルコ：43.1%、合計8位インド：43.0%、合計9位インドネシア：41.9%、合計10位アメリカ：40.6%以上40%以上の諸国等となっている。

昨今の世界の紛争の流れと重なる部分もあり、ランダムに抽出された回答者一般にこうした時系列的な影響が現れてきていることは、「都市や農村を美しくする」意識との組み合わせで選好度を訊ねるこの設問の理由付けを見出せるようにも思われる。

- ・『高い経済力を維持すること』に関しては現状、経済的に厳しそうな国々が重要視していることが明らかであり、細かく分析することは断念する。

(2) 複数項目を組み合わせた分析

国家10年の計について、①「経済力」、②「防衛力」等が“力を強める”ベクトルを示しているように見えるのに対して③『人々が職場や地域社会での物の決め方にもっと発言できるようにすること』および④『われわれの都市や農村をもっと美しくするよう努力すること』の2つは“文化”を高めるベクトルと捉えられる。流行りの表現になぞらえれば“品格を高める”ベクトルを示しているように見えなくも無い。今回、“品格”ベクトルと仮称しておこう。こうした仮説から、これら2つの項目について、「③と④で最も重視するとする回答の和」、同様に「③と④で二番目に重視するとする回答の和」、さらには「これらの総計」を算出した。表2の右端の三列分に各国の合成回答の数字を提示している。この回答項目を複合させた数字でどのような分析手がかりが得られるかを試行してみよう。

- ・2000年の“品格”水準の最重要では 日本が一位で50.7%、2位カナダ:44.7%、3位スペイン:43.6%、4位韓国:40.1%等となっている。

- ・総計のランキングでは、1位韓国:93.4%、2位日本:92.8%、3位モロッコ:83.8%、4位アメリカ:77.5%、5位イスラエル:77.4%、6位スペイン:76.9%。7位カナダ:75.4%、8位ベトナム:74.6%、9位トルコ:73.3%、10位メキシコ:72.9%、11位ベネズエラ:70.5%、12位中国:70.4%、13位アルゼンチン:70.3%、14位インド:69.9%、15位プエルトリコ:69.8% 等々となっている。
- ・中国は『都市や農村をもっと美しくするよう努力すること』を最重要とする回答では5位にありながら、『発言できるようにすること』に関して、最重要とする回答は60カ国の中でも下から3番目の4.6%を示した。結果的に「複合」させた“品格”ランクが下がったと言えよう。
- ・「発言」最重視の国のランキングは1位カナダ:40.1%（二番目10.6%を合わせると50.7%で二位）、2位スペイン:34.2%、3位日本:33.6%、4位スウェーデン:32.8%、5位プエルトリコ:31.7%、6位アメリカ:30.9%（二番目24.7%を合わせると

表2 今後10年間の国家目標:「都市や農村をもっと美しくするよう努力」最重視順

単位: %

国名	全体	経済力			防衛力			発言できる			都市等美しく			分からない			発言+都市等美		
		最重要	2番目重要	小計	最重要	2番目重要	小計	最重要	2番目重要	小計	最重要	2番目重要	小計	最重要	2番目重要	小計	最重要	2番目重要	小計
韓国	1200	50.4	20.5	70.9	9.4	20.8	30.2	22.8	20.8	43.6	17.3	32.5	49.8	0.1	0.2	0.3	40.1	53.3	93.4
日本	1362	38.8	22.2	61.0	2.7	12.3	15.0	33.6	12.3	45.9	17.1	29.8	46.9	7.8	12.3	20.1	50.7	42.1	92.8
モロッコ	1251	52.2	18.7	70.9	15.0	20.9	35.9	13.1	20.9	34.0	15.7	34.1	49.8	3.9	5.6	9.5	28.8	55.0	83.8
インド	2002	45.9	16.3	62.2	14.8	28.2	43.0	8.3	28.2	36.5	15.6	17.8	33.4	15.4	19.7	35.1	23.9	46.0	69.9
中国	1000	35.4	25.3	60.7	34.9	28.1	63.0	4.6	28.1	32.7	13.7	24.0	37.7	11.4	12.1	23.5	18.3	52.1	70.4
イスラエル	1199	48.9	22.0	70.9	23.6	30.8	54.4	9.8	30.8	40.6	13.3	23.5	36.8	4.1	7.4	11.5	23.1	54.3	77.4
ベトナム	995	60.4	21.6	82.0	11.6	27.2	38.8	10.8	27.2	38.0	11.8	24.8	36.6	5.5	6.0	11.5	22.6	52.0	74.6
トルコ	3401	64.2	19.1	83.3	10.8	32.3	43.1	11.5	32.3	43.8	10.6	18.9	29.5	2.6	3.0	5.6	22.1	51.2	73.3
メキシコ	1535	50.5	21.0	71.5	6.6	10.6	17.2	26.7	10.6	37.3	10.4	25.2	35.6	5.7	8.5	14.2	37.1	35.8	72.9
エジプト	3000	54.5	25.3	79.8	24.5	23.9	48.4	10.3	23.9	34.2	10.1	24.6	34.7	0.6	0.9	1.5	20.4	48.5	68.9
スペイン	1209	48.9	24.4	73.3	5.5	7.4	12.9	34.2	7.4	41.6	9.4	25.9	35.3	2.0	4.7	6.7	43.6	33.3	76.9
ジンバブエ	1002	65.4	16.8	82.2	9.1	14.2	23.3	15.9	14.2	30.1	8.7	18.2	26.9	1.0	3.8	4.8	24.6	32.4	57.0
ベネズエラ	1200	63.4	17.7	81.1	6.8	10.7	17.5	21.8	10.7	32.5	7.7	30.3	38.0	0.4	1.7	2.1	29.5	41.0	70.5
プエルトリコ	720	55.8	24.3	80.1	4.3	8.5	12.8	31.7	8.5	40.2	7.2	22.4	29.6	0.4	0.8	1.2	38.9	30.9	69.8
アルゼンチン	1280	51.9	26.5	78.4	8.8	16.1	24.9	30.6	16.1	46.7	6.8	16.8	23.6	2.0	6.1	8.1	37.4	32.9	70.3
イラン	2532	50.7	22.6	73.3	15.3	18.6	33.9	18.4	18.6	37.0	6.8	19.4	26.2	3.3	6.4	9.7	25.2	38.0	63.2
南アフリカ	3000	63.0	18.1	81.1	10.9	20.1	31.0	18.8	20.1	38.9	5.9	19.8	25.7	1.4	3.6	5.0	24.7	39.9	64.6
スウェーデン	1015	56.4	25.7	82.1	3.3	7.5	10.8	32.8	7.5	40.3	5.4	19.8	25.2	2.1	6.7	8.8	38.2	27.3	65.5
インドネシア	1004	81.6	10.6	92.2	7.5	34.4	41.9	2.7	34.4	37.1	4.8	25.1	29.9	3.1	7.9	11.0	7.5	59.5	67.0
バングラデッシュ	1499	73.3	9.7	83.0	8.5	26.5	35.0	10.1	26.5	36.6	4.7	18.3	23.0	3.3	3.7	7.0	14.8	44.8	59.6
カナダ	1931	49.9	30.2	80.1	4.1	10.6	14.7	40.1	10.6	50.7	4.6	20.1	24.7	1.2	2.7	3.9	44.7	30.7	75.4
セルビア・モンテネグロ	2260	77.2	12.0	89.2	5.8	15.2	21.0	9.0	15.2	24.2	4.5	32.3	36.8	3.5	4.3	7.8	13.5	47.5	61.0
フィリピン	1200	58.3	21.4	79.7	15.5	24.2	39.7	21.7	24.2	45.9	4.4	14.8	19.2	0.1	0.3	0.4	26.1	39.0	65.1
ヨルダン	1223	63.5	21.2	84.7	22.5	36.5	59.0	7.4	36.5	43.9	4.4	19.1	23.5	2.1	2.3	4.4	11.8	55.6	67.4
アメリカ	1200	47.9	29.2	77.1	15.9	24.7	40.6	30.9	24.7	55.6	4.2	17.7	21.9	1.0	2.6	3.6	35.1	42.4	77.5
チリ	1200	64.3	21.1	85.4	3.9	9.4	13.3	25.4	9.4	34.8	3.8	21.0	24.8	2.6	3.5	6.1	29.2	30.4	59.6
ナイジェリア	2022	70.5	17.1	87.6	11.6	23.0	34.6	13.9	23.0	36.9	3.6	19.4	23.0	0.3	0.9	1.2	17.5	42.4	59.9
タンザニア	1171	79.6	8.6	88.2	9.7	35.7	45.4	4.4	35.7	40.1	3.6	20.3	23.9	0.9	6.9	7.8	8.0	56.0	64.0
ペルー	1501	61.8	23.1	84.9	5.5	12.6	18.1	28.0	12.6	40.6	3.3	14.5	17.8	1.4	4.2	5.6	31.3	27.1	58.4
ウガンダ	1002	65.7	19.7	85.4	23.5	38.5	62.0	8.3	38.5	46.8	2.5	14.9	17.4	0.1	0.2	0.3	10.8	53.4	64.2

出所:「世界60カ国価値観データブック」p131より吉田が加工

55.6%でトップ)、7位アルゼンチン:30.6%以上30%台以上となっている。

上位国に共通する印象はデモクラシー尊重の国々ともいえようか、プエルトリコは歴史的にみてアメリカとの結びつきが強いとの印象がある。たとえば、島民は(1917年)アメリカ国民としての市民権を得て、第二次大戦後にはアメリカの自由州として(1952年)内政自治権も獲得した。比較的最近(1998年)、アメリカの51番目の州昇格を巡る住民投票が行われ、否決された経緯がある。国旗の意匠からも、限りなくアメリカに近い存在との印象はいなめない。

今回の紀要向けノートは以上で終了する。文化、芸術分野に関わる定量分析の試みは、今後とも継続したい。

### 引用文献

- (1) Human Beliefs and Values-A cross-cultural sourcebook based on the 1999-2002 Values surveys, edited Ronald Inglehart, Miguel Basanez, Jaime Diez-Medrano, loek Halman and Ruud Luijkx, 2004, Siglo Veintino editors,s,a, de c.v.
- (2) 「世界価値観調査」(第一回～第五回)国内結果より  
日本人の価値観変化 — サステイナブルな成熟社会へ —、(株)電通総研編、2005年、(株)電通総研
- (3) 世界60カ国 価値観データブック、電通総研/日本リサーチセンター 編、2004年、同友館
- (4) 世界23カ国 価値観データブック、電通総研/余暇開発センター 編、1994年、同友館

### 参考文献

ISSU BRIEF

ヨーロッパの景観規制制度 — 「景観緑三法」に関連して —

国立国会図書館 ISSUE BRIEF NUMBER 439 (FEB. 26, 2004), 調査と情報 第439号、国土交通課(上田 貴雪)